

令和3年3月22日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ 県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立自由が丘小学校	三木市教育委員会	国・ 公 ・私

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

(3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

ア 実施体制

1・2学年の学級担任とALTによるチームティーチングによる「外国語活動」としての指導を、学期に2回ずつ年間6回行っている。本校では、ALTは、月・水・木の週3回、3年生から6年生の授業を優先して配置しているため、これらの学年の授業がない時間を、1・2学年の指導の時間に充てている。

イ 指導計画及び授業の内容

三木市の「話せる英語教育」の年間カリキュラムモデル（1・2学年用）を参考に、担任とALTが事前に指導内容等を相談し、指導計画を立案している。その際、英語を初めて学習することや低学年であること、そして年間6回という回数等に配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、教師や友だちとの関わりを大切に体験的な言語活動を行うよう留意している。

言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事や季節ごとの様々なイベントで扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をしている。

どの授業にも、ALTが活用できることを活かして、ネイティブな発音にできるだけ多く触れさせながら、「聞くこと」「話すこと」を重視したゲームや歌などの活動を

通して、英語を使った簡単な挨拶や表現に慣れ親しませることを目的とした授業を心がけている。

(4) 情報提供の状況

外国語活動の授業の様子については、ホームページや学級通信などで保護者に知らせている。また、顕著な学びの姿が見られる児童については、通知表の所見欄において文章表記によって知らせている。

(5) 特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・ 特例の適用開始日 : 平成 28 年 4 月 1 日
- ・ 変更した特例の適用開始日 : 令和 2 年 4 月 1 日
- ・ 取組の終期 : 今後も継続した取組を予定

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係
(学校経営の重点や学校関係者評価等を参考に記入ください。)

本校の学校教育目標は、「志をもち ころ豊かに たくましく生きる子の育成」である。また、重点目標の一つとして「基礎基本の定着 思考力・判断力・表現力を育て

る授業の工夫改善（言語活動の充実）」を掲げている。これからの社会をたくましく生きていくためには、豊かな国際感覚、コミュニケーション能力を身に付けさせることが不可欠であり、そのために言語活動の充実を図るには「対話の場」を設定することが必要である。

そこで、特別の教育課程を編成・実施し、1・2年生から「外国語活動」に取り組みせることによって、外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」「話すこと」（対話すること）の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地を育成することができ、上記の本校の学校教育目標を達成することができるのではないかと考える。

（2）実施の効果

毎時間、ALTのネイティブな発音に触れながら、ゲームや歌などの活動を通して、楽しみながら様々な英語表現に慣れ親しむことができている。子どもたちは「外国語活動」の時間を待ち遠しく感じている。「聞くこと」「話すこと」、そして教師やALT、子どもたち同士のコミュニケーションを重視した活動を多く取り入れたことにより、英語への抵抗感を持つことなく、自然と英語を発話することができる子どもたちが育ってきている。また、英語特有の発音を聞くことによって、日本語と外国語との音声の違いに気付き、言語やその背景にある文化にまで、興味を持つことができる子どもたちもいる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

あくまでも、学級担任が中心となって指導することが前提である「外国語活動」であるが、担任によって、その意識に差が大きく、ややもするとALTに指導を委ねすぎるきらいがあるのが、現状の大きな課題である。また、市内の外国語活動研修部会の活動は、担当者を中心に盛んに行われているが、研修した内容等が研修部員以外の教師にまでうまく伝わっていない場合が多く、同一中学校区内における小学校間の差も存在する。

三木市で特別な教育課程を編成している以上は、今後どの小学校でもある程度の同じレベルの外国語教育が実施できるように、より多くの教職員の指導力向上を図る必要があると考える。